



第 154 号 (2016 年)
〒733-0032 広島市西区東観音 8-10
NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター
理事長：山根美智子 館長：バート&マギー・フィニックス
TEL (082) 503-3191 FAX (082) 503-3179
E-Mail wfchiroshima@nifty.com
URL: <http://www.wfchiroshima.net/>
WFC Facebook Group: World Friendship Center -Hiroshima

目次

1.	WFC 館長になってからの 5 か月間を振り返って	2
2.	私のピース(平和)ヒーロー	3
3.	ウィルミントン大学平和資料センター40 周年記念行事	4
4.	ヒロシマ モナムール	6
5.	伊方原発を訪問して	8
6.	WFC と私	9
7.	韓国 PAX	11
8.	2016 年北東アジア・ユース・ピース・キャンプ:回顧の一年	12
9.	中東からの教員団受け入れ	14

1. WFC 館長になってからの 5 か月間を振り返って

WFC 館長 バート・フィニックス

WFC の最も重要で素晴らしいところはゲストの存在です。

世界中から訪れるゲストは時には一泊、たいていは二、三泊センターに滞在します。多くはヨーロッパの国々から、他にも、アメリカ、オーストラリア、アフリカ、アジアの国々からも訪れます。



(WFC ゲストと笠岡貞江さん)

センターはゲストの滞在中、被爆証言、英語による碑めぐりを提供するのですが、原子爆弾や原子力エネルギーについてゲスト達の関心が非常に高いことに驚かされます。そのうえ、彼らは地球の将来について強い不安を持っています。

WFC Hiroshima Facebook グループのメンバーは増えています。私達はコメント付きでゲスト全員の写真を Facebook に載せています。ゲストの皆さんに Facebook グループに入るよう勧め、帰国してもグループに参加するようお願いしています。

ゲストはたいてい若いカップルですが、一人旅のゲストもいます。我々が広島に来た当初ゲスト数多くて忙しくしていましたが、8 月は英会話クラスがお休みでゲストに多くの時間を割くことが出来ました。たくさんゲストでゲストルームが満室になるイベントがあるときを除き、徐々にゆったりしてきました。その一例としては、サウジアラビアから来たインターナショナルスクールの生徒 14 名、先生 4 名とベルギーから 2 名のゲストが宿泊した時です。この 2 日間はセンターの布団全てを使いました。夜はゲームに興じる生徒達でリビングルームは賑やかでした。

また別の週末には広島で行われた「世界核被害者フォーラム」に参加した数名のメインゲストがセンターに宿泊しました。一人はオーストラリアのアボリジニ(オーストラリアの先住民)の女性で 2 人の娘と来ていたところ、NHK 広島がインタビューを行い撮影しました。彼女の父親は 1950 年代にイギリスがオーストラリアで核実験を実施した時、視力を失いました。核実験の危険性についてアボリジニは何も知らされていず、彼女の父は偶然爆発の光線を見たのだそうです。

私達はそれまで聞いたこともないような出来事について多くの話を聞きましたし、この 5 か月の間にゲスト、被爆者、私達関わったイベントからとても多くを学びました。再び広島、長崎で起こったような恐ろしいことが起こる前に核兵器は廃絶されなければなりません。

2. 私のピース(平和)ヒーロー

WFC 副理事長 立花 志瑞雄



2015年8月、アメリカに参りました。インディアナ州エルカートで、開かれたキリスト教会の会議で、被爆70周年についてお話をするためです。また、WFCの理事をされたオハイオ州在住のラムザイヤー夫妻、WFCの館長をされていたインディアナ州在住のバーチェ夫妻の教会でもお話をさせていただきました。

会議に先立って、オハイオ州にいるタニア・マウスさん(昨年4月のWFC50周年記念の催しに参加されたウィルミントン大学平和資料センター館長)を訪ねました。

タニアさんは、いくつかの場所を案内してくださったのですが、その一つがデイトン国際平和博物館でした。とても素晴らしいところです。次回のPAXでは、訪問してみたい場所です。展示室の一つは、平和のために活動したピース(平和)ヒーローについての展示にあてられ、バーバラ・レイノルズさんもその中の一人でした。デイトン国際平和博物館、ピース(平和)ヒーローについて、詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.daytonpeacemuseum.org/#inventpeace>



タニアさんはラムザイヤー夫妻宅まで数時間かけて、送ってください、夕食を共にできました。旅のなかで、多くのピース(平和)ヒーローにお会いしましたが、忘れてならないのは、ラムザイヤー夫妻です。お二人は広島在住中、WFCの理事をつとめ、原田東岷先生の著書をはじめ、原爆関係の書籍の翻訳をされ、平和のために尽力されました。私の尊敬するピース(平和)ヒーローです。最後に、今回の旅でお世話になったすべての皆さまに感謝申し上げます。

3. ウィルミントン大学平和資料センター40周年記念行事

アメリカ、オハイオ州ウィルミントン大学平和資料センター館長 タニア・マウス博士

2015年9月に、ウィルミントン大学の平和資料センター(PRC)40周年記念日と平和資料センターの創立者バーバラ・レイノルズを称えて「正義と平和: 地域社会と国際社会への呼びかけ」と題したプログラムが開催されました。このプログラムは1975年の平和資料センター創立会議「被爆30年後の広島: 世界への呼びかけ」を再現しようと企画されました。この創立会議には全米だけでなく世界中の国々から学者や専門家が集い、ヒロシマとナガサキへの原爆投下が世界に及ぼした影響、核兵器の脅威、世界平和構築の可能性などについて討議しました。更に嬉しい事に、この40周年記念行事のために、バーバラ・レイノルズが1965年に創立したワールド・フレンドシップ・センター(WFC)から山根美智子さん(WFC 理事長)、渡辺朝香さん(WFC 理事)、池田美穂さん(WFC スタッフ)の3人を迎えることが出来ました。

初日の9月10日に開会式、メモリー・シェアリング(思い出を語る)、平和と正義に関する講義が行われました。開会式でバーバラ・レイノルズが書いた「鳥の歌の瞑想」という詩を、彼女の娘のジェシカ・レイノルズが心をこめて朗読し、本会議の主題である「平和と正義」が紹介されました。それから渡辺朝香さんの指揮により、ワールド・フレンドシップ・センターのみなさんが美しい声で「世界の命=広島の心」を歌ってくれました。メモリー・シェアリングでは山根美智子さんが、歓迎のあいさつを述べ、WFCそして広島が平和を追求してきたことを伝えました。テリー・ミラー博士(ウィルミントン大学教育学名誉教授、1975年PRC創立会議の学生主催者)が1975年のバーバラ・レイノルズによる平和資料センター創立について説明し、その創立会議に出席した人たちが当時の思い出を語ってくれました。全体会議の中の講演その1では、エリッサ・フェyson博士(オクラホマ大学、近代日本史)が「バーバラ・レイノルズ、ヒロシマ、そして、国境を超えた反核運動の始まり」と題して講演しました。その中で、自分たちの声を自ら世界に届けようとした日本の被爆者たちと、彼らを代表して核兵器のない世界を作るために訴えたいと考えたバーバラの願いとの間の不一致を考察しました。講演その2では、キング牧師の非暴力主義に基づいて活動しているカズ・芳賀氏が「消極的平和と積極的平和」という考え方について説明し、社会の不均衡(不正)を正す手段として積極的平和の必要性を示しました。ノーマ・フィールド博士(シカゴ大学東アジア文明・言語学名誉教授)は、「今、私たちはどのように平和を語り、平和を考えることができるか」と題する基調講演の中で、最近の福島原子力発電所災害の被害者にとって、また日本の戦争中の残虐行為からの生存者にとって、正義無くして平和はあり得るのか、あるいは正義無くして平和であることは望ましいのか、と問いかけました。

二日目の会議(2015年9月11日)は公開討論会とワークショップに分かれ、参加者たちは平和と正義に関する短い発表を聞き、質疑応答、そして討論することができました。討論会1の「私たちの地域社会における世界平和のための取り組み」では、南西オハイオ州平和部隊ボランティアの

参加者で、「NPO 法人 Evergize Clinton County (クリントン郡を活性化する会)」の共同創設者であるテイラー・スタカート氏が平和部隊の平和についての公式見解を説明し、彼が平和部隊に入隊した経緯とその後について詳しく述べました。「アルカディア・ラーニング・コモンズ」創設者のニコル・フレンド氏は教育を通じて共感する文化を創り出すことで紛争を解決することの必要性を論じました。討論会2の「平和巡礼と暴力に代わるものへのめざめ」ではパネリスト達が平和活動への歩みの概略を述べました。カズ・芳賀氏にとっては、17歳の時「Interfaith Pilgrimage of the Middle Passage」(東アメリカ、カリブ海、ブラジル、西アフリカ、南アフリカを12カ月かけて歩く平和巡礼)に参加したことが、彼の人生を平和と社会正義活動へ導きました。ロイ・玉城博士(ウェブスター大学学際的研究教授)は広島を訪問し、被爆証言を聞いたことで心理的危機感を覚え、平和教育への道を進みました。ステファン・ポトフ博士(ウィルミントン大学宗教および哲学教授)にとっては夢を通して潜在的な人間の意識と連帯感を理解することの必要性でした。ワークショップ2と3では、地域住民とウィルミントン大学の学生たちがどうすれば大学や地域社会に平和と非暴力をもたらすことができるかを討論しました。ワークショップ4の「国際社会にとっての平和を定義」では学識者たちが非暴力的行動主義、平和ミュージアムの建設、正義のための運動など彼らの研究から具体的な例を討論しました。

この会議には、地域の人たちや学生などの様々な人たちが招待され、歴史や哲学、宗教、文学、また異なる分野にわたる学問を通して平和と正義の意義を考え、それらの概念についてさらなる理解を深めました。聴講者は、アメリカ各地からだけでなく世界各地から来られた様々な研究分野の学識者達に出会えました。例えば、立命館大学国際平和ミュージアム副館長山根和代氏(立命館大学準教授、草の根平和ミュージアムの専門家)、大量虐殺研究機関会長のジョイス・アスペル氏(ニューヨーク大学)などです。2日間にわたる会議は興奮と歓喜で満たされました。会議は9月11日金曜日の午後5時に終了し、閉会式では参加者たちがより平和な世界を築くために前に進む事を誓いあいました。



(PRCの前でタニアと参加者)



(ジェシカとジェリーが参加者と懇談)



(ウェブスター大学ロイ・玉城教授の
プレゼン)



(WFC の前館長達と再会)

4 ヒロシマ モナムール

アメリカ、ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授 エリン・オハラ・スラビック

エリンは、日本学術振興会(JSPS)の研究者として、核兵器と原子力を視覚的に関連づけるために、2 か月半の間ワールド・フレンドシップ・センターに滞在しました。彼女はセンターを美しくするのを手伝ってくれて、私たちは彼女をセンターの「滞在アーティスト」と呼ぶようになりました。彼女がいなくなると寂しくなります。(WFC 館長: マギー・フィニックス)

エリンのブログ <http://elinhiroshima.blogspot.jp/>

ヒロシマ > フクシマ > イワキ > ヒロシマ

2015年10月14日(水曜日)



表現する言葉もありません＝描写も＝取材も＝説明も＝要約も＝十分な証拠を伝えることも＝うんざりした気分を治すことも、放射能を可視化することも、山のような汚染物質を保管することも、できません。

原発事故以来小さな村では、米、養蚕、大根、など多くの生産をストップしたり、レストランも廃業に追い込まれたりしました。殆どの町には医者もいないし診療所もありません。救急車が来るにも30分はかかります。

きのこも、魚も、竹の子も、放射能に汚染されて食べることができません。

道路標識や横断幕には、「太陽光発電を使って復興しよう」と書かれています。本当に太陽光パネルは、政府や原発に反対して戦っている大多数の日本人や私に希望を与えてくれる最善のものの一つだと思います。

ナガサキ:原爆によって壊滅し、再びよみがえったもう一つの美しい都市

2015年11月4日(水曜日)

右の写真は私にとって長崎の中で最も壮観で美しく希望にあふれた場所でした。神社にある2本の樹齢400年のクスノキが大好きになって、翌朝6時半にまた出かけて地面の落ち葉や枯れ枝を集めましたが、公園や神社の全ての木々の落ち葉は早朝に綺麗にかき集めて清掃されてしまうので、これは容易な事ではありませんでした。幸い季節は秋だったので、私は青写真やシルエット写真のために落ちたばかりの葉や枯葉をいくつか集めることが出来ました。



左の木は原爆の時、上半分が惨めに切断されましたが、その後70年の間に枝葉を伸ばし成長し健全で正常な外観を取り戻しています。これらの樹木は人々の暮らしや原爆による破滅の歴史を目撃し、感じてきたのです。

ヒロシマの静かな夏 2015年10月23日(金曜日)



外国に来て朝起きた時、私は今ここで生きている、ようやくそこで暮らしているのだという不思議な感覚を持つ時があります。出かける便があるときは、毎日異なる道を通ろうと工夫しています。暑い日差しの中を何キロも歩きます。世界中を歩き回って、箱に入れてある不要な用紙を使ってネットワークをするために赤く澄んだ現像液のある暗室に戻ってきました。暗室でフクシマの栗の実やプラスチック、ヒロシマの被爆瓦の破片などのシルエット写真を作っていると、また大学生になったような気がします。

核の無い未来へ！広島世界核被害者フォーラム

2015年11月22日(日曜日)

こういう討論会は初めて開催されましたが、これが例年のイベントになればいいと思います。まる2日間、毎朝9時から夜8時までの100%、ウラン採掘のために放射能汚染されたナバホ自治区についてのシュリプラクレシュの映画や、討論に次ぐ討論、パワーポイントに次ぐパワーポイントと質疑応答に集中した後で、私は圧倒され、打ちのめされ、鼓舞され、腹を立て、意気消沈し、この世界で一人ではない、知識を得て、等々、。。。

5. 伊方原子力発電所を訪問して WFC 副理事長 車地かほり

WFC のピースセミナーのメンバーは昨年(2015年)の10月29~30日、一泊二日で愛媛県の伊方原子力発電所を訪問しました。一昨年の10月には島根原発に行きましたので、2回目の原発見学ツアー



(伊方原子力発電所)

一でした。参加者は、いつもピースセミナーの講師をして下さっている木原省治さん、渡邊道子さん、田口知鶴子さん、車地かほりの4人でしたが、現地では八幡浜市で長年にわたり反原発運動をしていらっしゃる齋間^{さいま}淳子さんが加わって下さいました。伊方原発は日本一細長いと言われる佐田岬半島の付け根にあり、狭い敷地に3基の原子炉が伊予灘に面して建っています。沖には「中央構造線断層帯」が走っていて大地震の時の被害が懸念されています。原子力規制委員会

は去年の5月に伊方原発3号機を新規規制基準に合格していると認定しました。従って近々再稼働される予定です。伊方原発は広島から直線距離にして100キロしか離れていません。もし万が一事故が起きた場合は、私たちの愛する美しい瀬戸内海は長期にわたって放射能で汚染され大打撃を受けるでしょう。想像するだけで恐ろしくなります。しかも広島県は事故時、島根原発と伊方原発両方の避難先に想定されています。新聞によると、広島の受け入れ対応はまだ白紙状態のようです。

斎間淳子さんは、伊方原発に近い八幡浜市でご主人と共に長年、新聞を発行しながら原発と闘って来られました。私達が宿泊したホテルのロビーでコーヒーを飲みながら彼女のお話を伺いました。地方の閉鎖的な町で反原発運動をするという事は、家族も巻き込んでの大変なご苦労があったそうです。広島に住む者として核兵器や原発の問題をこれからもより深く学んでゆきたいと思いました。



(左より: 田口知鶴子さん、木原省治さん、斎間淳子さん、車地かほりさん、渡邊道子さん)

6. WFC と私

山地 (旧姓 森) 比都恵

1970年の夏のある日、新聞で「ワールドフレンドシップナイト開催。場所:南観音ワールド・フレンドシップ・センター」という記事が目にとまりました。南観音町は、その年の春より務めていた会社に行く途中にあり、しかも「ワールド」という言葉にも惹かれ、私はWFCを訪れることにしました。



当日、仕事の帰りにバスを降り簡単にWFCに着くことが出来ました。古い日本家屋の玄関で、一呼吸した瞬間が、WFCと私との最初の出会いでした。やさしそうな外国人の女性に私は招き入れられ、すでに多くの老若男女が集まっている部屋に通されました。そしてまもなく、「皆さん、今晩は。ようこそWFCのワールドフレンドシップナイトへ。私は館長のゲルストン・マクニールです。隣の女性は妻のエルシー・マクニールです。このWFCは、1965年にバーバラ・レイノルズさんによって、広島と世界をつなぐ懸け橋として設立されました。平和を希求し、平和について語り合い、それぞれの経験を分かち合うというコンセプトに基づいて活動しています。月一回のこのワールドフレンドシップナイトはWFCの重要かつ楽しいイベントの1つです。どうぞゆっくりくつろいでください。」という挨拶で始まりました。

次に、理事長の原田東岷先生のお話がありました。その当時ベトナムで起きていた戦争で負傷し治療のため来日しているベトナム人のダウさんとヒュー君を先生は私達に紹介してくださいました。私にとって遠い国の出来事だったベトナム戦争が目の前に現実として浮かび上がりました。ダウさんの着ておられたアオザイがとてもきれいでした。

その後、シャーロット・ススマゴ(煤孫)さんのとても愉快的な腹話術が続き、WFC は和やかな空気に包まれました。ご主人が日系アメリカ人なので彼女は日本語が流ちょうで、ここ日本でも車を運転されるとてもアクティブで包容力のある、強力な WFC の館長補佐であることが後に判明しました。彼女の腹話術が終わり、お茶とお菓子をいただきながら、初めて会った人たちと雑談をする時間もあっという間に過ぎていきました。

結局この日から、私は WFC に関わるようになりました。特に館長夫人の教えてくださる英会話教室は、私の大好きな時間でした。会社帰りにはちょくちょく立ち寄り日本人スタッフの方とも仲良しになりました。会社の連休には泊まりこんでささやかなお手伝いをしたものです。当時の日本人スタッフの方々は今とは違い住み込みで、勤務されていました。瀬尾真砂乃さん、内山啓子さん、阿野陽子さん、永末栄子さん、妹尾かほりさん(現理事)達が 1970 年～1980 年に活躍されたと記憶しています。館長さんは、マクニール夫妻、エミリーU・ライトさん、スーホ・ハンさん一家、スタン・バトラーさん、モーリンさん達で、みんな実直で勤勉で平和的な方たちでした。実は私もたった2週間だけでしたが、臨時スタッフになるハプニングがありました。前述の内山啓子さんと阿野陽子さんの引き継ぎ期間がとれず、2 週間日本人スタッフ不在が生じたためでした。その頃ちょうど 3 年間勤務した会社を辞めていたので、私は頼まれてすぐ OK の返事をさせて頂きました。日常的な仕事の他に宿泊客がある時は、その朝食の用意など楽しくやらせて頂きました。二つのボランティアも経験しました。

一つは、週一回、原爆病院でそこに所蔵されている本をカートに乗せ、各病室を回り、患者さんに本の貸し出しをすること。もう一つは、これも週一回、広島原爆養護ホーム舟入むつみ園に行き、入所者の買い物を代行することでした。一人一人から希望される注文品をお聞きし翌日私達がそれらを購入しむつみ園へ届けるという、携帯電話やコンビニのなかった頃のささやかなお手伝いでした。

私自身、母が被爆者であるため、被爆者の方々にほんのわずかなお手伝いが出来て、うれしく思いました。WFC に入出入りしている間に、幸いにも一度だけ創立者のバーバラ・レイノルズさんにお会いする機会に恵まれました。1977 年夏だったと思いますが、たまたま WFC に立ち寄っていた時にバーバラさんが来られてお話しをすることが出来ました。バーバラさんは「髪を切りに行きたい。」と言われました。当時 WFC は翠町に移っていたのですが、近くの理容院に、ご案内しました。散髪が終わりました二人で WFC まで歩いて戻りました。今となっては、のどかな懐かしい思い出に

なりました。「私も被爆者です。」とおっしゃったバーバラさんとのこの出会いは私の人生の宝物の1つとなっています。

その後、仕事、結婚、出産、育児などで WFC から足が遠のきましたが、ワールド・フレンドシップ・センターでの活動や各方面からの多くの人々との出会いが私の平和を求める心を鼓舞してくれました。この度は“友愛”への記事を書かせていただく機会を与えて頂き本当にありがとうございます。

7.韓国 PAX

WFC 理事、広島修道大学教授 ジム・ロナルド

韓国 PAX は、広島(過去には長崎も)の人々が韓国を訪れ、平和へのメッセージを共有し、平和構築について学習する素晴らしい機会です。WFC 関係者にとって、韓国から隔年で来広する人々を歓迎し、ガイドし、ホームステイを体験してもらったりする素晴らしい機会でもあります。

今年は、チャールズ・ヘレン・サットンからの WFC への寄付金のお陰で、一人の被爆者の他に、数名の若者に参加補助費をだすことができます。韓国の受け入れ団体の、コリア・アナバプチスト・センター(KAC)から、8名の受け入れが可能だと連絡がありました。WFC 関係者と若者と被爆者からなるグループを派遣し、ヒロシマの思いを伝え、韓国の平和の構築について学んでもらいたいと期待しています。

2016 年韓国 PAX の日程は次の通りです。

広島出発 3月12日(土)

広島到着 3月17日(木)

既に WFC 関係者からの問い合わせは多く頂いています。学生にも宣伝する予定です。もし、参加希望の若者をご存知でしたらお知らせください。

8. 2016 年北東アジア・ユース・ピース・キャンプ

WFC 理事、広島修道大学教授 ジム・ロナルド

北東アジア・ユース・ピース・キャンプは昨年 7 回目の開催となりました。初回は中国で、それから中国・韓国・日本と 3 年のサイクルを二周しました。これまでに参加した 3 カ国の約 200 名の若者たちにとって、人生を変えるような素晴らしい経験であり、それは、少し年上の十数人のカウンセラーにとっても同様でした。WFC の皆様にも、このピース・キャンプ実現のために永年ご支援や祈りや助言を頂き感謝しています。

ピース・キャンプは、この間ずっとメノナイト中央委員会(MCC)の補助を受けてきました。MCC の北東アジア部から支給される助成金で、カウンセラーの全費用(旅費・宿泊費・食費)と管理費は賄われました。MCCのおかげで参加者の費用は一人につき、8 日間の宿泊費・食費・国内旅行費のための 500 ドルですみました。

MCC への助成金申請と年ごとの会計報告は、四川省南充の Wang Ying さんにやってもらいます。Wang さんは、Korea Peacebuilding Institute (KoPI)と日本の WFC の共催団体である Peace in China (PiK)の一員です。

7 年間ピース・キャンプを実施してきたので、今年はひと休みして、キャンプは実施せず、7 年にわたってやってきたことを振り返ってみるつもりです。特に、MCC の助成をもらうための条件の一つに、徐々に自立して MCC の財政支援に頼らないようにするという事項があります。これまで MCC に頼っていましたが、先々では自立への計画が申請に際して必要になるでしょう。また、ピース・キャンプの本来の目的を効果的に達成するためには、検討すべき様々な未解決の問題があります。ピース・キャンプの目的は次のとおりです。

ピース・キャンプは北東アジアの若者たちが、寝食を共にしながら平和構築及び争いを避ける方法を学ぶことにより、相手を同じ仲間と友達だと思い、自国にある根深い異文化間の思い込みや偏見に対して積極的に働きかけることができるようになることを目的とするものです。キャンプを通して以下の 3 点の実現を目指しています。

- 1) ピース・キャンプの参加者は“相手”を敵と見なさなくなる。
- 2) 参加者は母国に帰り積極的に平和活動に取り組む。
- 3) 参加者は相手側の歴史的わだかまりを理解し、和解に向けた行動を起こす。

実際ピース・キャンプは、多くの点で、その目的を達成してきました。参加者は、キャンプを通して他国や自国のキャンパーに対する態度を変え、母国でも積極的な平和活動を行います。例えば、多くの日本人キャンパーは、その後ピース・キャンプのカウンセラーとしてキャンプの平和活動を計画し、指導してきています。しかしながら、いくつかの未解決の問題が残っています。キャンプの

1ヶ国の参加人数枠は12名分あるのに、日本人の参加者はその半分までいくことがめったにありません。これではいくつかのキャンプの効果を上げられないので、検討する必要があります。この状態を改善するために様々な手段が試みられましたが、うまくいきませんでした。一方、ほとんど宣伝していないにもかかわらず中国では若者の参加者が集まります。

今年はキャンプを中止し、反省の年とします。年内にコーディネイターが集まって会議できるよう、MCC に助成金を申請していますが、それがいただけなくても、今年は、将来のためのより良いキャンプのあり方を検討する1年にします。WFCの支援者や機関紙「友愛」の読者の中で、どなたか良い提案があれば、是非お聞かせください。



9. 中東からの教員団受け入れ

WFC 理事長 山根美智子

センターのインターンをしたことのあるメアリー・ポペオから、2015 年 11 月に中東の高校教員を WFC に受け入れるのは可能かとの打診がありました。2015 年 12 月の理事会でこのプランは承認されました。

12 月末に、事務局長のレイ・マツミヤさんと実際にお会いし、宿泊や、被爆体験の手配、広島での核問題・平和関係の専門家とのネットワーク作りで中東オレアンダー・イニシアティブのプログラムの手伝いできると伝えました。

2016 年 8 月 4 日から 11 日まで、中東の約 20 名の高校教員が来広し、核戦争の恐ろしさについて、被爆体験を聞いて学んでもらい、それに加えて、原爆がどのようなものか、将来使用される可能性を減少させる方法等について、核兵器問題に詳しい専門家の意見を聞いてもらいます。はじめて原爆が投下された都市である広島で、問題意識を持ち、個人的な行動に繋げることが狙いです。この 7 日間にわたるワークショップに出席した教員たちは、自国の教育現場に帰って、核の危機についての学生の意識を高めることを目的とした教育活動を行うことになるでしょう。この中東オレアンダー・イニシアティブは、将来の指導者たるべき若者たちに、核戦争の結末を認識させ、核不拡散の信念を中東に植え付けるきっかけになることを目的としたものです。このような意義深い企画の一環を、WFC が担うことは、大変やりがいのあることだと思います。皆さんのご協力をお願い致します。

友愛編集委員： 車地かほり、栗原尚美、ジム・ロナルド、平岡佐知子、マギー・フィニックス
翻訳者： 兼綱寿美子、車地かほり、立花志瑞雄、平岡佐知子、山地比都恵、山根美智子

発行者 特定非営利活動法人ワールド・フレンドシップ・センター

発行所 〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10

(C)NPO World Friendship Center 2016

無断転載、複製を禁ず